

第 1 学年 国 語

1 学習の進め方

- (1) 教科書に準拠して漢字の学習を進めます。
- (2) 教科書に準拠して授業を進めます。
- (3) 自分の考えや友達の発言をワークシートにまとめましょう。
- (4) わからないことは積極的に質問して理解に努めましょう。
- (5) 話し合いや相談の時間を生かして、自分の考えを広げたり深めたりしましょう。
- (6) 書写教材やスタディサプリなどを使って言語に関わる力を養いましょう。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 授業に必要なものを忘れないようにしましょう。
…教科書、ワーク、ファイル
書写では鉛筆、習字道具など
- (2) 字は楷書を使って、濃く、大きく、ていねいに書く習慣を身に付けましょう。
- (3) 提出物は期限を守りましょう。
- (4) 自分から積極的に学習や課題に取り組みましょう。
- (5) 発言は大きな声ではっきりとクラスの人に伝えましょう。
- (6) 教室は失敗をする場所です。失敗や間違いを臆せず自分の考えを発表しましょう。

3 家庭学習の進め方

- (1) 日頃から読書や新聞等を通して活字に親しむ習慣をつけましょう。
- (2) 漢字の知識や文法についてはしっかり復習して知識の定着を図りましょう。
- (3) 計画的に、復習に努めましょう。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 教科書やファイルをしっかりと読み直したり、見返したりしましょう。
- (2) ワークで問題演習をしましょう。模範解答を必ず確認しましょう。
- (3) 漢字は正しく書けるように繰り返し練習しましょう。
- (4) わからないことがあったら、先生や友達に質問して理解できるよう努めましょう。
- (5) 本文を繰り返し声に出して読み、理解を深めましょう。
- (6) 漢字、文法、言語に関わる内容は繰り返し復習に努めましょう。

5 1 年生での学習内容…授業時間は、週 4 時間 年間 1 4 0 時間

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4 月	言葉に出会うために 1 学びをひらく	10 月	5 筋道を立てて
5 月	2 新しい視点で	11 月	6 いにしえの心にふれる
6 月	情報社会を生きる 3 言葉に立ち止まる	12 月	読書に親しむ 敬語を使う・手紙の書き方
7 月	読書生活を豊かに 読書感想文の書き方	1 月	7 価値を見いだす
8 月		2 月	8 自分を見つめる
9 月	4 心の動き	3 月	8 自分を見つめる

※上記以外に週一回書写の授業があります。

6 評価・評定について

評価とは、国語で身につけてもらいたい 3 つの観点について、A・B・C の 3 段階でつける成績のことです。評定とは、この観点の総合評価で、1 ～ 5 の 5 段階でつけたものです。

＜観点別評価と評価材料＞

観点 1 知識・技能

- ・我が国の伝統的な言語文化に親しみ、言葉の特徴や使い方、漢字、情報の使い方などについて理解し正しく用いる。また文字を正しく整えて速く書く。
(定期考査、漢字テスト、書写等)

観点 2 思考・判断・表現

- A「話すこと・聞くこと」…相手や場面に応じ、適切に話すこと、表現の工夫を評価して聞くこと、問題解決に向けて話し合うことで、自身の考えを深める。
(発表、スピーチ等)
- B「書くこと」…目的や意図に応じ、論理の展開を工夫して書き、また文章を書くことで自身の考えを深める。
(定期考査、ワークシート、作文等)
- C「読むこと」…目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して自己の向上を目指す。
(定期考査、ワークシート等)

観点 3 …主体的に学習に取り組む態度

- ・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め国語を尊重する。
(定期考査、提出物の提出状況・内容、ワークシート、書写等)

第1学年 社会科

1 学習の進め方

- (1) 1・2年生で地理・歴史、3年生で公民を学習します。
- (2) 教科書に準拠して授業を展開する。
- (3) 単元によって、グループでの話し合いや意見を交換する時間を設けます。
- (4) 資料を整理し、わかりやすくまとめる時間を設けます。
- (5) 状況に応じて小テストを実施します。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 授業は、専用の台紙（画用紙）に保管する授業プリントで学習を進めます。
- (2) 地理と歴史で別々のファイルを使用します。
- (3) 授業中に板書したこと、説明したことのうち必要と思うことは積極的にメモしましょう
- (4) 重要語句はマーカー・色ペンでチェックする等、授業プリントのまとめ方を工夫しましょう
- (5) 調べ学習やグループでの話し合い活動には積極的に参加しましょう

3 家庭学習の進め方

- (1) 復習をする場合には、授業プリントと教科書を照らし合わせ、よく確認しましょう。学習したことは忘れる前にワーク（スタディーサブリ）で確認することも大切です。
- (2) 予習をする場合には、教科書をよく読み、太字で表記されている重要語句を確認しておくようにしましょう。
- (3) 定期考査前には学習したことを（自分で）ノートにまとめてみるのも有効な勉強方法です。授業プリント、教科書、ワークを活用して「ノートまとめ」をしてみましょう。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 授業プリントと教科書を照らし合わせ、振り返りましょう。「ノートまとめ」は有効な勉強方法です。
- (2) ワークの問題を解き、知識が定着するようにしましょう。ワークは反復して解けるよう、付属のノートを活用すること。
- (3) 学習の基本は、用語や地名などの重要語句を覚えることです。さらに単元の流れを理解することを心がけましょう。自分の言葉で重要語句の意味や、単元の流れを説明できるようにしましょう。

持ち物 地理のとき→教科書・授業プリント・地図帳・ワーク、必要に応じて Chromebook、のり
歴史のとき→教科書・授業プリント・ワーク、必要に応じて Chromebook、のり

※持ち物は全てロッカーに置いて構いませんが、授業開始の時には机上に準備した状態でいてください。

※授業プリントをファイルする時はきちんと折って、ていねいに保管するようにしてください。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週3時間、年間105時間）

月	学習内容	月	学習内容
4月	地理 ・世界の姿、日本の姿	10月	地理 ・世界の諸地域 オセアニア
5月	地理 ・世界の人々の生活と環境	11月	歴史 ・人類の誕生、 ・縄文・弥生時代、古墳時代
6月	地理 ・世界の諸地域 アジア ヨーロッパ	12月	歴史 ・奈良時代、平安時代
7月	地理 ・世界の諸地域 アフリカ	1月	歴史 ・鎌倉時代、室町時代
8月		2月	歴史 ・室町時代、大航海時代
9月	地理 ・世界の諸地域 北アメリカ 南アメリカ	3月	歴史 ・安土桃山時代

6 評価・評定について

評価とは社会科で身に付けてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で1～5の5段階でつけたものです。

＜観点別評価と評価材料＞

観点1 「社会的事象への知識・技能」

世界や日本の国土と歴史に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。

（評価材料）定期考査、小テスト、ワークや教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題など

観点2 「社会的な思考・判断・表現」

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理や歴史に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。

（評価材料）定期考査、小テスト、ワークや教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題など

観点3 「主体的に学習に取り組む態度」

授業やグループワーク、調べ学習などに積極的に取り組み、よりよい社会の実現のために課題を主体的に解決しようとしている。

（評価材料）レポート、授業、ファイル、ワークへの取り組み方、その他状況に応じて課される提出課題など

例：ファイル（授業プリント）の評価の場合

応用部分が工夫され、不足が絶対的にない：a、 基本的なことがまとめられている：b、
明らかに足りない部分があるがかりうじて提出：c、未提出：d

第 1 学年 数 学

数学の授業は、週 4 時間です。

1 学習の進め方

- 1 時間の中にできるだけ多くの問題を扱うようにする。
- (1) 講義・・・教科書の内容を整理し、問題を解きながら理解する。
途中の過程を確実に書くようにする。
- (2) 問題 演習・・・教科書の問や黒板に書いた問題を解く。
- (3) ワーク学習・・・授業の進み具合に応じて、進める。
- (4) 宿題・・・ワークは授業の進み具合に応じて宿題とする。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) ノートを取ることに。考えるところはしっかりと考えることが大切。
プリントで授業を行うこともあります。
- (2) 解らないことはそのままにせず、解るまで質問する。
- (3) 途中式を必ず書く。
- (4) 間違いを直すときは、その理由を大切に。必ずやり直す。
- (5) 毎授業、振り返りシートを使いその日の授業を振り返る。

3 家庭学習の進め方

- (1) ワークは授業の進度に合わせて進める。授業の進み具合に応じて宿題とする。
毎日の復習として取り組む。
- (2) ワークなどの課題は丁寧に取り組む。間違えたときは、もう一度取り組み、間違いを見つけ、直す。解らないときは答えを見て考えてよい。答えだけを書くのではなく、途中の計算過程を書く。

※ワークの進め方※

- ① 自分で解く。答え合わせをする。
- ② 間違えた問題は、どこを間違えたか確認する。
- ③ 解らないときは解答を見ながら考える。
- ④ 解らない問題は先生に聞く。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 試験範囲の問題をやり直す。
- (2) ノートで語句の意味やポイントを確認する。
- (3) 時間があれば、さらにいろいろな問題を解くことにチャレンジする。

5 1 年生での学習内容 （授業時間は、週 4 時間 年間 1 4 0 時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4 月	第 1 章 正負の数	10 月	第 3 章 方程式 第 4 章 比例と反比例
5 月	第 1 章 正負の数	11 月	第 4 章 比例と反比例 第 5 章 平面図形
6 月	第 2 章 文字と式	12 月	第 5 章 平面図形
7 月	第 2 章 文字と式	1 月	第 6 章 空間図形
8 月	夏休みのため 授業なし	2 月	第 6 章 空間図形 第 7 章 データの分析と活用
9 月	第 3 章 方程式	3 月	第 7 章 データの分析と活用 1 年間のまとめ 演習問題

6 評価・評定について

- (1) 観点別評価は、下記の項目・割合で算出し達成度により A B C で評価します。

観 点	観点 1 知識・技能	観点 2 思考・判断・表現	観点 3 主体的に学習に取り組む態度
内 容	計算やグラフを書くなど、 数学的に処理することがで きるか。	先を読む力、根拠を説明す る力など身に着けている か。	数学的活動の楽しさや数学の 良さを実感し、活用としてい るか。
評 価 材 料	☆定期考査 ☆小テスト等	☆定期考査 ☆小テスト等 ☆レポート	☆自己評価表 ☆ノート ☆ファイル（計算プリント） ☆ワーク ☆提出物 ☆テスト振り返り ☆再小テスト

- (2) 評価は観点を算出し、達成値により評定を算出します。

7 その他

- (1)長期休業中等に状況に応じて補充教室を行います。

第 1 学 年 理 科

1 担当教員

- 山本 義和（週 2．0 時間）
- 中村 剛 （週 1．0 時間）

2 学習の進め方

- （１）【単元 1】「いろいろな生物とその共通点」（生物分野）【山本】
- （２）【単元 2】「身のまわりの物質」（化学分野）【山本】
- （３）【単元 3】「身のまわりの現象」（物理分野）【山本・中村】
- （４）【単元 4】「大地の変化」（地学分野）【中村】

3 持ち物について

- （１）教科書、ノート、ファイル、タブレット、のりはいつも用意してください。
（５点セット）
- （２）教材はすべてロッカーに置いておいて OK です

4 授業では…

- （１）話をよく聞き、板書以外にメモをとりましょう。
- （２）山本の授業ではプリントとタブレットを使用します。プリントはファイルに入れて管理をしましょう。中村の授業では実験観察プリントは基本的に「すべてノートに貼る」です。貼り方などは、授業で指示をします。
- （３）実験室を使用するときは、使用上の注意にしたがってください。また、実験・観察ごとに薬品や実験器具・装置の使い方などの注意があるので、しっかりと確認をしていきましょう。
- （４）わからないことはそのままにせず、積極的に質問をしましょう。
（授業中に質問できないときは、授業後や昼休み、放課後を利用する。）

5 家庭学習の進め方

- （１）理科では、教科書の予習をする必要はありませんが、実験の前などは、実験の方法などを読んできてもらうときもあります。
- （２）授業の復習が大事です。教科書をよく読み返し、ノートやプリントを見直したり、問題を解く練習などをしたりしましょう。
- （３）自分で調べてもわからないことは、そのままにせず、積極的に質問してください。
- （４）小テストの振り返りや定期テストのやり直しを行いましょう。

6 テストに向けての学習の取り組み方

- （１）教科書、ノート、プリントファイルタブレットをよく見直しましょう。
- （２）実験・観察の手順や、注意点、なぜそのような操作を行うか、何がわかるのか等をよく理解し、ノートにまとめましょう。
- （３）重要な用語は、覚えるだけでなく、説明できるようにすることで理解が深まります。
- （４）計算や作図、グラフの問題は、繰り返し何度も行うことが大切です。

7 評価について

- 主体的に学習に取り組む態度 ●思考・判断・表現 ●知識・技能
3 つの観点別で A・B・C の三段階で評価します。
A…80%以上達成 B…50%～80%未満達成 C…50%未満達成
その後、これらの観点から 5 段階で評定をつけます
5…達成度 90%以上 4…達成度 80%～90%未満
3…達成度 50%～80%未満 2…達成度 20%～50%未満 1…達成度 20%未満

〈実験プリントの評価例〉 S→7 点 A→5 点 B →3 点 C→1 点
未提出→0 点

- 主体的に学習に取り組む態度
・自ら学習に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしているか。
～評価材料～①授業態度や実験の取り組みのようす
②授業ノート
③実験プリント、レポート課題
④提出物の取り組み状況
⑤定期テスト、小テスト
- 思考・判断・表現
・実験や観察した結果を自ら分析し、わかりやすく表現することができるか。
～評価材料～①実験プリント、レポート課題
②定期テスト、小テスト
- 知識・技能
・基本的は科学的な概念や法則を理解しているか。
・実験器具を正しく、安全に使うことができるか。
・実験や観察の結果などの情報を丁寧に記録、整理し、活用することができるか。
～評価材料～①実験プリント、レポート課題
②定期テスト、小テスト
③実技テスト

第1学年 音 楽

1 学習の進め方（歌唱の題材例）

- （１）前時の振り返り・本時の予定の確認
- （２）発声練習、校歌
- （３）合唱練習（パート、全体）
- （４）ワークシート記入
- （５）本時の振り返り・次回の予定

2 学習（授業）上の注意点

- （１）苦手なことにも前向きに一生懸命取り組みましょう。
- （２）周りに遠慮せず、豊かに自己表現をしましょう。
- （３）楽譜やワークシートにしっかりメモをしましょう。
- （４）ワークシートや教科書の内容、わからないことをそのままにしないようにしましょう。

3 家庭学習の進め方

- （１）授業時間内に未完成な部分は宿題となります。提出物は期日を守りましょう。
- （２）実技テスト前は、家庭でも確認の練習をしましょう。
インターネットの動画や音源を利用して実技の練習をするのも良いと思います。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- （１）基本的にワークシートの内容や教科書に書いてあることを出題するため、配布されたワークシート等は紛失しないように管理しましょう。
- （２）音楽記号や語句は正確に覚えられるようにしましょう。
- （３）わからないことはそのままにせず、質問しに来てください。

5 1年生での学習内容（授業時間 1・2 学期週 1.3 時間 3 学期週 1 時間 年間 45 時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4 月	歌唱：校歌、発声、変声期 実技テスト（校歌） 鑑賞：鑑賞学習について、	10 月	歌唱：混声三部合唱（課題曲、各クラスの自由曲） 実技テスト（課題曲）
5 月	鑑賞：春一第1楽章— 器楽：アルトリコーダー	11 月	鑑賞：歌曲「魔王」 器楽：
6 月	器楽：アルトリコーダー 実技テスト（アルトリコーダー） 創作：リズム創作	12 月	鑑賞：箏曲「六段の調」
7 月	歌唱：混声三部合唱（課題曲、各クラスの自由曲）	1 月	器楽：箏 実技テスト（箏）
8 月	夏休みのため 授業なし	2 月	鑑賞：日本の民謡
9 月	歌唱：混声三部合唱（課題曲、各クラスの自由曲）	3 月	歌唱：校歌、歌唱：混声三部合唱（離任式の合唱曲）

6 評価・評定について

評価とは、音楽で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

＜観点別評価と評価材料＞

観点1 【知識・技能】

- 定期テスト
- 実技テスト（姿勢・発声・発音・音色などの歌や楽器に必要な技能）
- 創作作品
- 提出物（ワークシート）

観点2 【思考・判断・表現】

- 定期テスト
- 提出物（ワークシート）

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

- 授業への取り組み（ワークシート）
- 提出物（ワークシート、振り返りカードなど）

第1学年 美術

1 学習の進め方

- (1) 基本的技法を身に付ける。
- (2) アイデアをたくさん練る。
- (3) 制作の順序を考え、見通しを持つ。
- (4) 材料や用具を生かし意図に応じて工夫して表す。
- (5) 他生徒の作品の良さ、自分の作品の良さに気づき尊重する。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 教室に忘れ物をしない。（授業中は取りに行きません）
- (2) 既存のデザインには頼らない。
- (3) チャイム前に授業準備をする。（物の貸し借りは禁止）
- (4) 人の作品を手伝わない、手伝ってもらわない。
- (5) 隙間時間を活用する。（スキマ課題）
- (6) 美術の道具一式を持ち帰るのは長期休暇期間のみ。

3 家庭学習の進め方

- (1) 発想するための情報を集める。
- (2) 学習内容に関連したものに興味を持つ。
- (3) 情報を発想や構想に生かして表現したり、鑑賞したりできる体験を積み重ねる。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) テスト対策プリント内容の確認。（道具は持ち帰らない）
- (2) テスト範囲に含まれる内容に関連した事に関心を持つ。
- (3) 範囲として指定されずその場で考える問題は、落ち着いて問題をよく見てよく考える。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週 1.5 時間 年間 45 時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4 月	オリエンテーション えんぴつの達人になろう	10 月	立体：ダミーアート
5 月	レタリング 構成美の要素	11 月	立体：ダミーアート
6 月	色について・絵具の練習 デザイン：色面構成	12 月	立体：ダミーアート
7 月	デザイン：色面構成	1 月	鑑賞：コマ撮りアニメーション 映像：コマコマ
8 月	夏休みのため 授業なし	2 月	映像：コマコマ
9 月	鑑賞：身の回りの美術 立体：ダミーアート	3 月	映像：コマコマ 鑑賞：コマコマ発表会

6 評価・評定について

評価とは、美術で身につけてもらいたい5つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

＜観点別評価と評価材料＞

- 観点1**
- ・定期テスト
 - ・作品
 - ・ワークシート

- 観点2**
- ・定期テスト
 - ・アイデア
 - ・作品
 - ・ワークシート

- 観点3**
- ・定期テスト
 - ・作品制作過程、提出
 - ・授業への取り組み
 - ・作品完成シート

第1学年 保健体育

1 学習の進め方

- (1) ラジオ体操を行います。また、種目に応じて主運動に繋がる準備運動をします。
- (2) 集団行動を繰り返し行い、正しい整列や挨拶をできるようにします。
- (3) 小集団でのグループ学習で話し合い活動やアクティブラーニングを中心に進めます。
- (4) 必要に応じて学習カードやクロームブックを活用します。
- (5) 必要に応じて映像の活用や示範を行います。

2 学習（授業）上の注意点

- (1) 体調が悪い場合はすぐに伝えてください。
- (2) めあてを理解し、その達成に向けて取り組みましょう。
- (3) 用具の準備や片付け、環境整備をきちんと行いましょう。
- (4) 安全に留意して、真剣に取り組みましょう。
- (5) 学習した知識や技術を活用して考えたり話し合ったりしましょう。
- (6) 自分や仲間の動きを確認し、良い点や改善点について指摘できるようにしましょう。

3 家庭学習の進め方

- (1) 授業で学習したことの振り返り。
- (2) 映像を確認して、正しいフォームやポイントを押さえる。
- (3) 技術のポイントの確認。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) プリントの見直しや復習プリントの確認をしましょう。
- (2) ルールや用具、安全上の留意点を記述できるようにしましょう。
- (3) 種目のルールや特性について、具体的に記述できるようにしましょう。
- (4) 動きのポイントについて、具体的記述できるようにしましょう。

5 1年生での学習内容（授業時間は、週3時間 年間105時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	陸上競技、体づくり運動	10月	バレーボール
5月	陸上競技	11月	バレーボール、保健
6月	水泳、体づくり運動、保健	12月	走り幅跳び、長距離走
7月	水泳	1月	柔道
8月	夏休みのため 授業なし	2月	柔道、ダンス、保健
9月	器械運動（マット運動）、保健	3月	ハンドボール

6 評価・評定について

評価とは、保健体育で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

＜観点別評価と評価材料＞

観点1 【運動や健康・安全についての知識・技能】

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに、基礎的な技能を身に付けることができる。

（評価材料）＊個人記録 ＊スキルテスト ＊ゲーム内評価 ＊単元テスト ＊定期考査

観点2 【運動や健康・安全についての思考・判断・表現】

運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

（評価材料）＊授業中の動き及び発言 ＊レポート ＊単元テスト ＊定期考査

観点3 【運動や健康・安全について主体的に学習に取り組む態度】

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとしている。また、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をしようとするとともに、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営もうとしている。

（評価材料）＊授業中の動き及び発言 ＊レポート ＊単元テスト ＊定期考査

第1学年 技術家庭科（技術分野）

1 担当教員 須澤 浩一

2 学習の進め方

- （1）前時の振り返り・本時の予定
- （2）作業の説明・諸注意
- （3）作業
- （4）片付け
- （5）本時の振り返り・次回の予定

3 学習（授業）上の注意点

- ・ 1年生の技術の授業は教室、木工室を使用します。
- ・ 授業では、総合ノートとプリントを使用します。板書された用語などをプリントや総合ノートに書き込むだけでなく、先生の説明も書き込むようにしましょう。
- ・ 安全な実習にするため、先生の説明を聞くときは聞き、作業や活動に取り組むときは集中して取り組みましょう。
- ・ 授業の終わりに授業のまとめをします。各自、授業で学んだことを記入しましょう。プリントは基本的に毎回提出ですが提出しない場合もあります。いつでも提出できるようにしておいてください。
- ・ プリントは各自でクリアファイルを準備し必ずファイルします。プリントが返却されたらすぐファイルに保管する習慣をつけましょう。
- ・ 1年生は木材加工を行います。木工室で授業を行うときは作業で制服が汚れるためジャージ上を必ず持ってきてください。

4 家庭学習の進め方

- ・ 授業では必ずファイルが必要になるので忘れないようにしましょう。
- ・ 授業のプリントを復習しましょう。
- ・ 授業で設計を行っているときは家庭でも考え、研究しておきましょう。

5 テストに向けての学習の取り組み方

- ・ 期末考査、学年末考査の範囲の教科書、授業プリントを中心に学習しましょう。

6 1年生での学習内容（授業時間は、週1時間 年間35時間）

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	【A材料と加工の技術】 材料の特徴	10月	作品製作 部品加工
5月	製図、キャビネット図、第三角法 による正投影図。木の実験「木の 箱にビー玉を入れる」	11月	作品製作 部品加工
6月	木の実験「木の箱にビー玉を入れ る」製作	12月	作品製作 部品組み立て
7月	「木の箱にビー玉を入れる」「製作 マニュアル作成」「製作品の評価」	1月	作品製作 部品組み立て
8月	夏休みのため 授業なし	2月	作品仕上げ 「製作マニュアル作成」
9月	部品表、部品加工、作品設計「工 夫した設計を行う」作品製作	3月	「製作品の評価」 ＜学習発表会＞

7 評価・評定について

評価とは、技術で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける
成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

★ 観点別評価と評価材料

観点1 【知識・技能】

生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解
している。
＊期末考査 ＊学年末考査 ＊設計図 ＊製図 ＊製作品完成度

観点2 【思考・判断・表現】

生活について見直し課題を見付けその解決を目指して自分なりに工夫し創造している。
＊授業プリントの記入内容 ＊工夫された設計図 ＊製作過程 ＊製作進捗状況

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

生活や指導について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。
＊授業プリントの記入内容 ＊授業態度

8 備 考（注意事項・アドバイスなど）

- ・ 技術では危険な機械や道具を使用することが多いです。授業では怪我をしないよう安全に実習・作
業を行っていかねばなりません。そのために集中して作業に取り組みましょう。
- ・ 技術室は、他学年の生徒も使用します。使用後の整理整頓を常に心がけ、次の生徒が気持ちよく使
用できるよう心がけましょう。

第一学年 技術家庭科（家庭分野）

1 学習の進め方

- 家庭科の授業は教室または被服室で行いますが、授業内容によっては調理室で行う場合もあります。
- 毎時間、ワークシートを配布します。板書し、先生の話聞いてメモをします。
- グループで個人の意見を共有し発表します。
- 授業の終わりには、今日のまとめを記入したワークシートを提出します。

2 学習上の注意点

- チャイムと同時に挨拶ができるよう、準備や着席をしておく。
- 授業は私語をせずに集中して取り組む。

3 家庭学習の進め方

- 学習した内容を家庭で実践する。
- ワークシートを参考に、教科書を復習する。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- 授業ワークシートを中心に、教科書を復習する。

5 1年生での学習内容

月	学習内容	月	学習内容
4月	【未来につながる家庭分野】 家庭分野のガイダンス	1月	私たちの住生活
5月	私たちの家族と家庭生活	2月	① 住まいの役割と安全な住まい方
6月	【私たちの食生活】 ① 食事の役割と中学生の栄養の特徴	3月	② 持続可能な住生活 学習のまとめ
7月	② 中学生の栄養を満たす食事		
9月	① 調理のための食品の選択と購入		
10月	② 日常食の調理と地域の食文化		
11月	③ 持続可能な食生活		
12月			

6 評価・評定について

評価とは、家庭科の学習で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

★観点別評価と評価材料

観点1 【知識・技能】

- ＊定期考査、ワークシート、その他状況に応じて課される提出課題。

観点2 【思考・判断・表現】

- ＊定期考査、ワークシート、教科書での学習、その他状況に応じて課される提出課題。
- ＊調理実習に関する提出課題。

観点3 【主体的に学習に取り組む態度】

- ＊授業への取り組み姿勢、よりよい生活の実現のために課題を主体的に解決している。
- ＊授業ワークシート、その他状況に応じて課される提出課題。
- ＊調理実習に関する提出課題。

第1学年 外国語（英語）

0 担当教員

平瀬 亮子、菅野 圭汰、秋野 颯、ホリ ウィルミライザ(ALT)

1 学習の進め方

- (1) 授業のスタートは「帯学習(BINGO,Quizlet、ロイロノートのクイズ、すらすら英会話など、毎回短時間くり返し行う学習)」を行います。
- (2) 1学期の初期は Penmanship のワークを使って、アルファベットの形や音、単語や英文の書き方に慣れていきます。
- (3) アルファベットを書き慣れてきたら、教科書を中心にワークシートやワーク(エイゴラボ)、Chromebook を使って授業を進めていきます。「話す」「聞く」「書く」「読む」活動(トレーニング)に積極的に取り組みましょう。

2 学習(授業)上の注意点

- (1) 間違いを恐れず、積極的に活動に取り組みましょう。
- (2) 間違いを恐れず、大きな声で、はっきりと発言しましょう。
※授業は失敗する場所です。失敗することで必ず成長できます。
- (3) 友達の使う英語を聞くことも立派な学習です。多くを吸収し、たくさん英語を使えるようにしていきましょう。
- (4) 英語は「実技教科」です。授業では、勉強(トレーニング)方法を伝えます。
家に帰ってから自分でトレーニングができるように、授業中は活動に集中しましょう。
- (5) 忘れ物をしないように、気をつけましょう。
持ち物:教科書、ファイル、エイゴラボ、ミニラボ、Switch Penmanship、Chromebook、自習学習用の13段のノート

3 家庭学習の進め方

- ※皆さんの力を一番伸ばせるのが「家庭での繰り返し学習」です。
- (1) 授業の復習を中心に、音読をたくさんやりましょう。(根気強くやりましょう。)
※ロイロノートの課題の範読を繰り返し聞き、たくさん真似して発音しましょう。
音声を課題に録音し、自分の発音をよく聞いて、ベストのものを提出しましょう。
※学習が進んできたら、「スタディサプリ」で苦手の補充学習をしましょう。
- (2) 出された課題(音読やエイゴラボ、ワークシートの課題等は必ずやりましょう。
- (3) まず単語は音で覚え、音で覚えたら、その単語を使って文を作り、何度も発音して言えるようにしましょう。言えるようになったことをたくさん紙に書いて何度も練習しましょう。
- (4) 英語はできる限り日本語に訳さず、ジェスチャー・場面・動きなどイメージで理解しましょう。

4 テストに向けての学習の取り組み方

- (1) 教科書本文の音読をたくさんやりましょう。(暗唱するくらい)
- (2) エイゴラボや授業のワークシートで間違えたところは自習学習用ノートに繰り返し取り組みましょう。(間違いがなくなるまで)

5 1年生での学習内容 (授業時間は、週4時間 年間140時間)

月	学 習 内 容	月	学 習 内 容
4月	Phonics, Unit 0 Sounds and Letters 0 Grammar for Communication 0	10月	Unit 6 Real Life English 2 Grammar for Communication 5
5月	Unit 1 単元テスト Sounds and Letters 1 Unit 2 Sounds and Letters 2 Grammar for Communication 1	11月	Unit 7, 8 Real Life English 3 Grammar for Communication 6 期末テスト
6月	Unit 3, 4 Sounds and Letters 3 Grammar for Communication 2 期末テスト	12月	Real Life English 4 Stage Activity 2 Unit 9
7月	Sounds and Letters 4 Grammar for Communication 3 Stage Activity 1 Our Summer Vacations	1月	Real Life English 5 Grammar for Communication 7
8月		2月	Unit 10 Real Life English 6 Grammar for Communication 8 期末テスト
9月	Unit 5 Real Life English 1 Grammar for Communication 4 中間テスト	3月	Stage Activity 3 Let’s Read

6 評価・評定について

評価とは、英語で身につけてもらいたい3つの観点について、A・B・Cの3段階でつける成績のことです。

評定とは、この3観点の総合評価で、1～5の5段階でつけたものです。

<観点別評価と評価材料>

観点1 <知識・技能>

定期テスト、パフォーマンステスト(スピーキング、スピーチ、朗読(音読)など)、リスニングテスト、小テスト、課題テスト、復習テスト、提出物

観点2 <思考・判断・表現>

定期テスト、提出物、パフォーマンステスト、リスニングテスト、小テスト、課題テスト、復習テスト

観点3 <主体的に学習に取り組む態度>

定期テスト、提出物、パフォーマンステスト、小テスト、課題テスト、復習テスト

7 備考(注意事項)

○提出物は提出期日を守り、遅れずに提出しましょう。

欠席・出席停止中など提出日に事情がある場合は、登校した初日提出してください。

また、提出日に提出できない理由がある場合は、必ず先生に申し出て、指示を受けてください。

○ワークシート

プリントはファイルに保管します。

欠席した際は授業プリントを必ずもらうこと。少人数で授業を行うため、自分の席にプリントは入っていないことがあります。提出物や小テスト等にかかわるものが配布されることもあります。必ずしっかり確認し、プリントの抜けがないようにしましょう。

○ エイゴラボ

○つけをして、提出します。間違えたところは赤で訂正します。○つけがぬけていたり、やっていないところが無いよう、授業の進度にあわせて計画的に進めていきましょう。ワーク提出日は英語の試験日に一斉に提出です。(最終 16:00 まで)試験範囲表や授業内でお知らせします。

8 課題テスト

夏休み、冬休みあけにテストを予定しています。

9 リスニングテスト

英語の音声聞いて、答えるテストです。定期テストでもリスニングテストがあります

10 パフォーマンステスト

ALTと評価するものや、担当の先生が評価するものがあります。

5月はUIの単元テストがあります。その都度連絡をします。